

掃除は人生を変える

中国 蓋 玉春



私は、江蘇省の「揚州掃除道伝習センター」で、中国の経営者に合宿を通じて掃除の大切さを伝えていきます。

2017年3月、大阪の茨木神社でトイレ掃除を体験しました。私は最後の感想発表で、「この人生で掃除だけをします」と言いまし

た。その日は43歳の誕生日であり、初心を忘れず約束を果たすと誓ったつもりでした。さて、掃除で私の人生はどう変わったでしょうか？

一 日本で掃除を学ぶ前は、家での油の瓶を倒しても、妻に「瓶が倒れたよ」と叫び、自分は動こうとしない人でした。掃除を始めて約2年後、私のアシスタントをすることになった妻は、「あなたは気づくようになったね」と言ってくれました。

二 授業がない日は、近くの道路を約1時間掃除し、通りすがりのお年寄りに挨拶をします。そして掃除を中断し、少しおしゃべりをします。そのときは一番幸せな時間です。7年前に亡くなった父は、お年寄りを見かけたらいつも温かく接していまし

た。以前の私は、そういうことは絶対にしませんでした。

三 「蓋さん、なぜ満面の笑みを浮かべているのですか？」と、参加者からよく聞かれて、とてもびっくりしています。以前高校の教師だったときは、私は死んだような顔をしていて、まったく笑えなかったのですから。

掃除は、「すべての生き物は元来仏であり、本質的に自給自足である」と教えてくれます。私は皆さんと掃除をする時間を大切にしています。この世の出会いや運命であり、成功のお手伝いの他に選択肢はないのですから。

掃除は私を変えただけでなく、私を救ってくれています。「人生で掃除だけをする」ことができる。素晴らしいことです！

凡事徹底タニサケ精神

岐阜県

まつおか
ひろし
松岡 浩



1985年創業のタニサケは、まもなく38年。改めて「タニサケ精神」を記してみます。

- ① 明るく、楽しく、元気で、笑顔いっぱい
の社風です。全社員に存在感があり、自信満々です。
- ② 社員は燃えています。燃えない仲間がいたら、自身が明々と燃

えて、その人に点火します。

- ③ 「即行」を意識して、常に打てば響く行動をします。それこそが相手に感動を与えるのです。

- ④ 男性社員は早朝から「やる掃除」をしています。他人のために汗を流す実践はすばらしい。

- ⑤ 人を喜ばすことを常に意識しています。得意先訪問時には常に「プラスワンセールス」として感動情報等を届けます。

- ⑥ 100-110(約束事を二つでも破ると信用はゼロ)。命の次に大切なものは信用、と私は思っています。毎月一日発行の社内報『フレッシュタニサケ』は2500部。創刊以来、発行日が遅れたことはありません。これも信用づくり。今では、前月の15日までに完成させています。

- ⑦ 優れた製品を安くつくるために交際費はほとんど使いません。無駄な経費が製品価格に上乘せされることになるからです。

- ⑧ ハガキを書いて30年。おかげさまで全国の皆様とハガキの交流ができます。今では皆様から毎日届くハガキで元気をいただいで、感謝でいっぱいです。

- ⑨ 「プロは日々進化し、アマは日々退化する」。全社員がプロをめざして改善を行い、日々進化を心がけています。私自身も「長たる者は部下の誰よりも損をすべし」を心がけ、早朝出勤と会社周辺の道路清掃を20年以上続けています。全社員で「凡事徹底」を謙虚な心で、石にかじりついても実践し続けます。

(503・2428岐阜県揖斐郡池田町片山2957-1)

誰の仕事でもない仕事を自ら 進んでやると人生がよくなる

東京都

清家

和弥



「まほろば事業団」は、青少年に日本の心を育む教育事業を行なっています。私はその趣旨に共感し、平成17年(2005)7月に入社し、同年広島県での中高生セミナーで、広島掃除に学ぶ会によるトイレ掃除を初めて経験しま

した。

最初はいよいよ始めた生徒が、次第に没頭し、最後は笑顔で喜びを語る姿を見ました。私は掃除の力を実感するとともに、生徒と高め合える教育を行なうことに喜びを感じました。以来、毎年のセミナーで掃除に取り組んできましたが、平成22年(2010)の明治神宮での鍵山相談役のご講演の言葉が強く印象に残りました。

「誰の仕事でもない仕事を自ら進んでやると人生がよくなる」

目をそむけたくなくなるほどの汚れや、人目につかないゴミに躊躇なく向き合う大人の姿に、生徒たちは人生の Handbook を見ている、掃除を通して人生の大切な心構えを学んでいるのだ、と気づかされたのです。

平成23年(2011)、「日本を美しくする会」の震災復興ボランティアに参加しました。困っている人に進んで尽くし、さまざまな困難に対して力を尽くす皆さんの献身的な姿を見て、自分の生き方を省みる機会となりました。

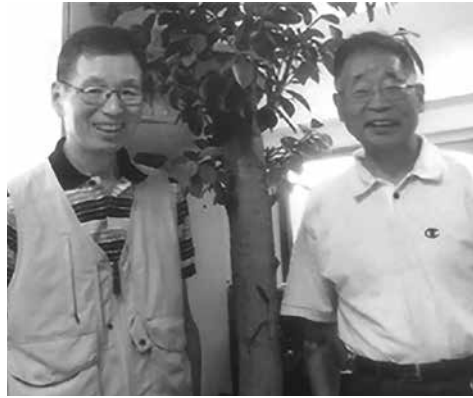
私は、掃除を通して世の中の荒みを少しでもなくしたい、「掃除にもつと学ぶべきだ」と思っ、菅刈公園の掃除に毎週参加するようになりました。

草一本の抜き方にも行き届き、「土に還らないから」と小プラスチック片も拾われる相談役に圧倒されました。今は青山高校とその周辺清掃に参加していますが、高校生の良い人生の種まきになればと願っています。

鍵山様のお側におれて 幸せでした

東京都

阿部あべ
豊ゆたか



毎週火曜日3時起床、中野駅
始発で千駄ヶ谷駅。都立高校正
門まで徒歩20分、5時到着。落葉
とゴミを掃き集めていると、仲

間が見えます。今日は12名。「やあ！」と挨拶します。ゴミはビニール袋へ、落ち葉は土に戻します。一面の落ち葉やゴミがきれいに集められ、なんとも清々しい。鍵山秀三郎様創唱の「掃除に学ぶ会」の活動です。

私は2001年定年でイエローハットに入社し、2005年日本を美しくする会事務局になり、ずっと鍵山様の秘書でした。鍵山様はご自分の時間や体調も構わず、掃除の普及、ひいては世の中を良くしたいとの強い思いから、寸暇を惜しんで日本各地から世界を駆け回られました。

私は鍵山様と、各地の活動に加え、本社移転後も目黒川沿いや菅刈公園の掃除を2019年10月の鍵山事務所退職まで18年

間毎日続けました。鍵山様の出張・講演・執筆活動の手配、郵便物受発送、震災支援など、鍵山様の思いを察して、実に多くの方と接触し、動きました。

私は幸せでした。「師」のため、ひいては世のために尽くすことが、こんなにも幸せなことだとは、それまでの人生では絶対に知ることのない世界でした。

2015年10月16日運命の日、鍵山様が事務所で体調不良を訴えたとき、救急車を呼びました。それ以来掃除をご一緒することはできなくなりました。今遠くから鍵山様のご回復を祈り、鍵山様が生涯をかけた「掃除の道」を、いかに維持発展させていくか、それだけを願っています。

(165-0026東京都中野区新井4-13-23 503)

日本の未来、良き未来は 「掃除道」から

広島県

千手 せんじゆ
えり子 こ



先人が残してくれた良き日本。私たちが、節度を忘れて汚し傷ついた、日本の国土と日本人の心。

鍵山秀三郎師が提唱し、自ら実践者となって導いてくださっ

た「掃除道」には、全てのエッセンスが控え目に、そして奥深く残されています。それは、金科玉条の如く、こうである！なければならぬ！の、スキルを身につける掃除ではなく、やってみて気が付く、やればやっただけ違うところにも気がつく、本人次第でどこまでも深められる道、それが掃除道…。

誰でもできて、到達は自分の気付き次第。こんなに優しく、そして厳しくもある道。単にモノの掃除から、人生の生き様や在り方を、自分で自分の道を掃き浄めていくことに繋がって、自分の愚かさや至らないところに気付いてゆくのも心の掃除なんだ！

掃除との出会いは、2002年子どもが通っていた小学校で

の「宇部掃除に学ぶ会」に参加したのがきっかけでした。3人の幼い子どもたちが、参加を重ねるにつれ、一丁前に国の根幹が揺らいでいる現代社会を嘆いているのが可笑しくて…。親は失敗だらけなのに、なぜだろう？掃除に集まる大人の後ろ姿が伝えたモノがあるのでないかと、考えている次第です。学校のお掃除は意義深いのですね。

「心温かきは万能なり」を体現する相談役と、お掃除仲間との出逢いと感動が人生を喜び深いものにしていきます。おかげさまで、今は元氣に広島ので真菰栽培で、休耕田を蘇らせる活動をしています。

(733 0851 広島県広島市西区田方1丁目)

16 41 9 701

鍵山掃除道と私

長野県

宮本

賢一



教師の私は、鍵山秀三郎先生との出逢いで変わりました。

それまでは、生徒と向き合っているものの、教師としての軸もなく、生徒の言動に一喜一憂の毎日でした。生徒指導といいながら、生徒をコントロールしたり、授業に惹きつける技法や聞きかじっ

た知識に走ったりしていました。

問題が発生すると現象に振り回され、生徒に反省を促し、行動を改めさせ、子どもにさせよう、教えようと必死でした。

2006年の夏、初めて鍵山先生と同じ空間で掃除をさせていただいたときの感動を、今もはっきりと覚えています。目の前の便器がきれいになっていくことで、清々しく内側から満ち溢れるエネルギーを感じ、疲れが残りが残りました。自身清浄ということを感じていたのだと思います。

この感触や感動が薄れることを恐れ、小布施掃除に学ぶ会、鍵山教師塾、東北震災ボランティアなどで学びを続けました。その中で、鍵山先生の「凡事徹底」の非凡さを強く感じるようになり

ました。

教師生活のなかで培われた「感化」の世界が教育であり、その価値観を私は求めていたと思います。このことは、今後の人生の生き方、私の教育の軸として活かしていきます。

このような心掛けでいると、不思議と良いご縁に恵まれ、誰かがそのときに必要なヒントを教えてください。人のご縁や生かされていること、不思議さを感じます。

今後も鍵山秀三郎先生をはじめ多くの皆様からいただきましただご恩は、私自身丁寧なよい生き方をする事で周りの皆様に返していきたいと思えます。ありがとうございます。

11年間を振り返って想うこと

東京都

齋藤 さいとう

大輔 だいすけ



私の掃除との出会いは、2011年5月、宮城県石巻市での復興支援活動でした。石巻のベース

キャンプで、掃除に学ぶ会のみなさんに受け入れていただき、そこで、京都の前田佳織さんと知り合いました。

当時東京新洗組の立ち上げ直近で、毎月活動日が近くなると、決まって前田さんから連絡がありました。半強制的に(笑)、とりあえず参加。未熟だった私は「貴重な休日の早朝5時に起きて、なんで掃除なんだ」と、いつも葛藤していました。1か月、1か月と続けているうちに、掃除に対する私の考えが変わっていき、1か月に1度ぐらいいき、自分を律してみよう」そして、それができると、「今月もできたな」と自己肯定感が増していく体感がありました。

気づけば11年、毎月第3日曜日

には池尻大橋の国道246号の掃き掃除を続けています。ときには相談役に言葉をかけていただき、大変力づけられました。そして掃除後は、喫茶店で阿部豊さんから相談役のお話を伺いました。

その話をお聞きする中で、いつしか、私の中に「愛国心」と「日本の未来に対する危惧」が生まれてきました。現在私なりにその問題と向き合おうとしています。

11年間を振り返ると、掃除を続けてきたことで、自分の立ち位置が年々変化してきていることに気づきます。まさに掃除と歩んできた人生。そして、掃除を始める前の私よりも、今の私が好きです。そんな私を育んでくれた皆様とご縁に心から感謝いたします。

(181-0016 東京都三鷹市深大寺1-2-11・101)

掃除との出会いが 人生を変える

愛知県

新美

文二



私はコムラインという外食産業を経営していますが、ある勉強会で田中義人氏の「トイレを掃除すると会社が良くなる」という講話を聞きました。衝撃でした。

早速1993年11月、日本大正

村での第一回掃除に学ぶ会に妻と参加しました。鍵山秀三郎様に指導を受け、公共トイレを2人で掃除しました。

素手で便器に手を突っ込むことに抵抗がありました。が、無心に磨いているうちに、便器がピカピカになり、それとともに心も洗われてくるのを感じました。すべてが清々しさにみちあふれ、美しく変わることに驚き、経営の原点はこれだと確信しました。

翌日から会社のトイレ掃除を始めました。社員は見向きもせず、せんでしたが、「継続は力」を胸に続け、仲間と西三河掃除に学ぶ会をつくりました。

北海道から沖縄まで20県、台湾、ブラジルの海外の大会にも参加し、多くの方と出会いました。

「二つ拾えば一つだけきれいになる」「一人の百歩より百人の一步」「凡事徹底」などは、企業経営の原点です。田中義人氏、鍵山秀三郎様との運命的な出会いが、私の人生を大きく変えました。

阪神大震災、東日本大震災、皇居清掃などのボランティア参加も掃除がきっかけでした。そして2016年、社員が「コムライン掃除に学ぶ会」を立ち上げました。創業以来最大の喜びでした。現在200回以上続けています。

日本を美しくする会30周年、本当に感慨深く、感謝しております。昨年当社は創業50年を迎え、社長を娘婿に交代しました。「企業は人なり」、掃除の精神を忘れず邁進してもらいたいと思います。

(472-0033 愛知県知立市中町花山35)